

「ウォクス・ポプリー ウォクス・デイー 民の声は神の声」

都城東高校2年 木下あかり

「最近の若者はなっていない」

毎週日曜日午後 6 時 30 分から長年放送され続けている国民的アニメの中で発せられた言葉です。

「最近の若者は」と会場の皆さんも耳にしたことがあるでしょうし、中にはそれを発した経験をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。

この言葉に続くこととして誉め言葉がくる可能性は非常に低く、「こらえ性がない」「すぐ辞める」「ゆとり」などと断じられ拳句の果てには「勉強はするが志が低い」とまです言われる始末です。

実はこれは今から約 5000 年前ピラミッドの建設に携わった人々が天井裏の人目に触れない場所に「近頃の若者は」と愚痴めいた落書きを残した俗説が広く知れ渡るほど遠い昔から言い続けられたことのようにです。

しかしこれらのことは本当に若い世代全体の未熟さへの批判というだけで片付く問題なのでしょうか。

そもそも現代の社会情勢を鑑みた時、仕事内容の多様化、AI 技術の発達などから働き方そのものに対する価値観も変わってきています。バブル経済崩壊後に生まれ、景気の低迷した時代しか知らない私たちと高度経済成長を支えてきた世代との考えが一致しないのは当たり前です。どちらが正しいということではなくそこには相互理解と歩み寄り、そこに至る議論が必ず必要になります。自分の考えだけが正しいとしてしまうのは排他的なエスノセントリズムの典型です。

さまざまな世代の人々の意見を調整していくことを政治とよぶはずで。

そして、その意見を反映させる唯一といってもいい機会が選挙であると私は考えています。

多様な意見に傾聴することなく「投票率が上がらない」と頭を抱え、一方で「最近の若者は」という考えを捨てきれない…ここに大きな矛盾をはらんでいることに気が付かない限り10年後も20年後も同じことが繰り返される未来が霞んで見え続けることでしょう。

多様な意見が反映される、実現するという明るい希望があれば投票率は上がるはずですが。毎回取りざたされる若い世代の常套句である「どうせ意見しても何も変わらない」というあきらめは自分たちの住む国や地域に対するあきらめにつながっていくことに、大人も子どもも関係なく全ての人が気づかねばならない時にきているのです。

「あきらめたらそこで試合終了です!」

私たちの生活している国や地域はそんなにも弱く、もろい、情けないものなのでしょうか？

大人の皆さん!自分たちの利害だけを優先せず、次世代に未来を託すべく歩み寄りませんか?もちろんそのために様々な施策をうっておられることは十分に存じ上げた上で失礼を承知で敢えて述べさせていただいています。未熟な人間の意見に耳を傾けることに不安があるのは間違いないでしょう。であるならば完全に委譲するのではなくせめて若い世代の意見を採用するための土壌を作ってみませんか?

投票率を上げるためにインターネット投票を導入する意見が若手議員から出た時もシステムの構築に時間を要すること、選挙違反が発生することを理由に棚上げになった事例がありました。やりもしないで否定するのではなく実際にチャレンジしやすい環境を整えることはできないでしょうか?うまくいかなかったら年長者が責任はとるから思い切ってやってみろという社会構造は作れないでしょうか?

若い世代のみなさん!私を含めみなさんが住んでいる国や地域に対する責任を持ちませんか?みなさんが過ごしている日常は当たり前ものではありません。年長者の方々の誰か一人一人の仕事で成り立っていることを忘れてはなりません。幼いころであ

ればそこに感謝があればそれでよかったかもしれませんが、それだけではいつまでたっても誰かにおんぶに抱っこの状態から抜け出すことはできないのです。

発言が届かないと嘆く若者は多くいます。実際今の私がそうです。この壇上でそのことを述べています。しかしそれだけでは何も変わりません。要求するのなら自分の見識を深めなければならないのです。みなさん一緒に学びましょう！何も机の上だけの話ではなく大人と話をする、SNS で様々な人々の意見を見て、知る。そういった経験の累積こそ「大人が傾聴してくれる意見を述べることができる人間」に近づく小さな一歩です。

大人も若者も「できるかできないか」を考え行動します。しかしこれは私にいわせれば「臆病者の考えているふり」です。思慮深いことは「善」ではあるかもしれませんが「真」ではありません。

「できるかできないか」より「やるかやらないか」もっと言えば「やる」一択です。

このことが、社会全体でシェアされることで投票率の低さは解消されるところかよりよい国や地域の構成員としてのプライドが目覚めることになるでしょう。

様々な人々の意見がボーダーを越えて一つの塊になった時それは「民の声」となります。

運命だから抗えないのだということなどありません。なぜならみなさんが声をあげること、行動することが運命そのものを作り上げるからです。運命は切り開くものではありません。わたしたちが作り上げるものです！

わたしたちの声が未来を切り開く神様からの言葉となって社会全体に降り注ぐのです。

「ウォクス・ポプリー ウォクス・デイー 民の声は神の声」

当事者意識を持ってともに希望ある社会の構築に貢献しましょう！